

Oracle® Enterprise Data Management Cloud

Oracle Enterprise Data Management Cloud と Oracle Database の同期



G17563-01

ORACLE®

Oracle Enterprise Data Management Cloud Oracle Enterprise Data Management Cloud と Oracle Database の同期、
G17563-01

Copyright © 2024, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 このレシピについて

2 レシピをインストールする前に

3 レシピのインストールおよび構成

4 レシピのアクティブ化および実行

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_yw@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

このレシピについて

このレシピを使用して、Oracle Enterprise Data Management と Oracle Database を同期します。

Note:

このレシピは、統合ストアの **Oracle EDM Cloud — Oracle Database | エンタープライズ・データの同期** として使用できます。オラクルでは、このレシピをサンプルとしてのみ提供します。レシピはガイダンス用で、エラーなしであることは保証されません。このレシピに対するサポートは提供されません。

概要

このレシピは、Oracle Enterprise Data Management と Oracle Database の間でエンタープライズ・データを同期します。

このレシピを使用するには、オンプレミスの接続性エージェントをインストールし、レシピをインストールして、その中に接続を構成する必要があります。次に、**EDM DB 抽出同期**統合を使用して、Oracle Enterprise Data Management のビューポイントからエンタープライズ・データを抽出し、そのデータをデータベース表にロードします。**DB EDM 抽出同期**統合を使用して、データベース表からデータを抽出し、そのデータを Oracle Enterprise Data Management のビューポイントにロードします。

システム要件およびアクセス要件

- Oracle Integration バージョン 23.2.0.0.0 以上
- Oracle Enterprise Data Management Cloud
- サービス管理者の役割を持つ Enterprise Data Management Cloud のアカウント
- Oracle Database 12c 以上
- 管理者の役割を持つ Oracle Database のアカウント

2

レシピをインストールする前に

データベースに正常に接続し、レシピの抽出を作成するには、次の構成タスクを実行する必要があります。

接続性エージェントのインストールおよび構成

接続性エージェントを使用すると、オンプレミス・データベースに接続できます。

1. Oracle Integration で、「**設計**」、「**エージェント**」の順にクリックします。
2. 「**ダウンロード**」をクリックし、**接続性エージェント**を選択して、任意の場所に保存します。
3. **新しいエージェント・グループを作成します**:
 - a. 「**作成**」をクリックします。
 - b. **エージェント・グループの作成**で、エージェントの名前、識別子および説明を入力し、「**作成**」をクリックします。

Note:

Oracle Enterprise Data Management およびデータベースへの接続を構成するときに作成したエージェントを選択する必要があります。[レシピのインストールおよび構成](#)を参照してください。

4. エージェントの構成をダウンロードします。
 - a. 作成したエージェントについて、「**アクション**」***をクリックし、**構成のダウンロード**を選択します。
InstallerProfile.cfg ファイルがダウンロードされます。
 - b. ダウンロードした InstallerProfile.cfg ファイルを、ステップ 2 で接続性エージェントを保存したフォルダにコピーして、既存のファイルを上書きします。

接続性エージェントの開始

接続性エージェントをダウンロードして構成した後、次のステップに従って接続性エージェントを開始します:

1. コマンド・ウィンドウを開き、接続性エージェントをダウンロードしたフォルダにナビゲートします。
2. 次のコマンド: `java -jar .\connectivityagent.jar` を入力して、エージェントを開始します。

抽出したデータ用のデータベース表の作成

Oracle データベースで次のタスクを実行して、Oracle Enterprise Data Management から抽出するエンタープライズ・データ用の表を作成します:

1. (**オプション**): 表に対して新しいスキーマを作成します。

2. 次のスクリプトを実行して、スキーマの下に `EXTRACT_UPLOAD` という名前の表を作成します。

```
create table EXTRACT_UPLOAD
(
  NAME          VARCHAR2(1024),
  DESCRIPTION   VARCHAR2(1024)
)
```

Oracle Enterprise Data Management での抽出の作成

Note:

このレシピは、リスト・ビューポイントから「名前」および「説明」プロパティを抽出します。抽出を作成するとき、両方のプロパティが含まれるかぎり、抽出の環境にある任意のリスト・ビューポイントを使用できます。

このレシピでは、**取得済 GL (レガシー)**アプリケーションの「コスト・センター」ディメンションを例として使用しており、サンプル・アプリケーションの作成時に使用できます(*Enterprise Data Management Cloud の管理および操作のサンプル・アプリケーションの作成を参照*)。必要なプロパティを含むリスト・ビューポイントに対して抽出を作成しているかぎり、このアプリケーションを使用する必要はありません。

抽出を作成するには:

1. Oracle Enterprise Data Management から、抽出を作成するディメンションを検査します。この例では、サンプル・アプリケーションで使用可能な**取得済 GL (レガシー)**アプリケーションの「コスト・センター」ディメンションを使用します。

Note:

EDM DB 抽出同期統合の要求本文に、抽出を作成するアプリケーションおよびディメンションを入力する必要があります。[EDM DB 抽出同期統合の実行](#)を参照してください。

2. 「抽出」タブで、「作成」をクリックします。
3. 抽出の作成画面で、次の値を指定します:

フィールド	入力する情報	例
ビューポイント	データの抽出元のビューポイント。  Note: DB EDM 抽出同期統合の要求本文に、ビューおよびビューポイントの名前を入力する必要があります。 DB EDM 抽出同期統合の実行を参照してください。	コスト・センター
名前	抽出の名前。  Note: EDM DB 抽出同期統合の要求本文に、抽出名を入力する必要があります。 EDM DB 抽出同期統合の実行を参照してください。	CCEExtract
説明	(オプション)抽出の説明。	コスト・センターをデータベースと同期するための抽出。
抽出の種類	抽出の種類。これは、「全体」である必要があります。	全体

4. 抽出のプロパティを選択します:

- a. 抽出インスペクタから、「列」タブで「編集」をクリックします。
- b. 「プロパティの管理」をクリックし、「説明」を選択して、「OK」をクリックします。

 **Note:**

「名前」プロパティはデフォルトですでに選択されています。

- c. 「保存」をクリックします。

5. 抽出をパブリックに移行します:

- a. ディメンション・インスペクタから、作成した抽出の「アクション」列で「アクション」をクリックし、「上位へ移動」を選択して、「はい」をクリックして確認します。
- b. 「保存」をクリックします。

3

レシピのインストールおよび構成

Oracle Integration インスタンスで、レシピをインストールして、統合および関連リソースをデプロイおよび構成します。

1. Oracle Integration ホーム・ページの「**開始**」セクションで、**ストアの参照**をクリックします。
2. インストールするレシピを検索して、**取得**をクリックします。
レシピが正常にインストールされたことをメッセージで確認したら、レシピ・カードに「**使用中**」と表示されます。
3. レシピで「**構成**」をクリックして、そのリソースを構成します。
プロジェクト・ワークスペースが開き、レシピのすべてのリソースが表示されます。レシピをアクティブ化して実行する前に、次のリソースを構成します。

Oracle Enterprise Data Management の接続の構成

1. 「接続」セクションで、**EDM 接続**をクリックします。
2. 「**接続の構成**」で、次の値を入力します:

フィールド	入力する情報
プロパティ	
接続タイプ	REST API ベース URL は選択したままにします
接続 URL	サービスの REST API エンドポイントを入力します。例: https://acme-test-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/epmcloud/rest/v1
セキュリティ	
セキュリティ・ポリシー	基本認証 は選択したままにします。
ユーザー名	サービス管理者のユーザー名を入力します
パスワード	サービス管理者のパスワードを入力します
アクセス・タイプ	Oracle Enterprise Data Management 環境に適切なアクセス・タイプを選択します。

3. 「**保存**」をクリックして接続パラメータを保存し、次に「**テスト**」をクリックしてパラメータを検証します。

Oracle Database の接続の構成

1. 「接続」セクションで、「**データベース接続**」をクリックします。
2. 「**接続の構成**」で、次の値を入力します:

フィールド	入力する情報
プロパティ	
ホスト	データベースのホストを入力します

フィールド	入力する情報
ポート	データベースのポートを入力します
SID	システム識別子を入力します(必要な場合)
サービス名	データベース・サービス名を入力します
セキュリティ	
セキュリティ・ポリシー	ユーザー名パスワード・トークン は選択したままにします
ユーザー名	管理者のユーザー名を入力します
パスワード	管理者のパスワードを入力します
アクセス・タイプ	接続性エージェント を選択します

3. **エージェント・グループの関連付け**をクリックし、**接続性エージェントのインストールおよび構成**の手順で構成した接続性エージェントを選択して、「**使用**」をクリックします。
4. 「**保存**」をクリックして接続パラメータを保存し、次に「**テスト**」をクリックしてパラメータを検証します。

EDM DB 抽出同期統合の構成

次に、データベース表に接続するために統合を構成します。

1. 「統合」セクションで、**EDM DB 抽出同期**統合をクリックします。統合エディタに統合が表示されます。
2. 下にスクロールして、**Invoke** uploadExtracttoDatabase ステップを探します。



3. 「アクション」 ***をクリックして、「**編集**」を選択します。
4. **基本情報の編集**で、**実行する操作は何ですか。**を**表での操作の実行**に設定したままにし、**表で実行する操作は何ですか。**を「**挿入**」に設定したままにします。「**続行**」をクリックします。
5. **表での編集操作**で、「**追加**」をクリックして表を選択します。「**スキーマ**」および「**表名**」ドロップダウン・フィールドを使用して、**抽出したデータ用のデータベース表の作成**の手

順で作成したスキーマおよび表を選択します。「表タイプ」では、「表」を選択して、「検索」をクリックします。

6. 検索結果で、表を「使用可能」から「選択済」に移動して、「続行」をクリックします。
7. 「続行」をクリックして、「完了」をクリックします。
8. 「保存」をクリックします。

オプション: 表名の更新

EDM DB 抽出同期統合は、抽出したデータ用のデータベース表の作成のステップに従い、Oracle データベースに EXTRACT_UPLOAD という表を作成している、という前提でコーディングされます。別の表名を使用している場合は、これらのステップに従い、表の名前を使用して統合を更新します。

1. 「統合」セクションで、EDM DB 抽出同期統合をクリックします。統合エディタに統合が表示されます。
2. 下にスクロールして、「切替え」セクションの **Invoke DeleteDatabase** ステップを探します。

Note:

このステップは、抽出から新しいデータを書き込む前に、データベース表から既存のデータをクリアします。これにより、DB EDM 抽出同期統合の実行時に重複行エラーの発生を防ぎます。

3. 「アクション」***をクリックして、「編集」を選択します。
4. 基本情報の編集で、実行する操作は何ですか。を SQL 文の実行に設定したままにし、「続行」をクリックします。
5. SQL 問合せで、EXTRACT_UPLOAD を表の名前に置換します。NAME および DESCRIPTION 以外のプロパティを抽出する場合は、それらのプロパティを更新します。

Note:

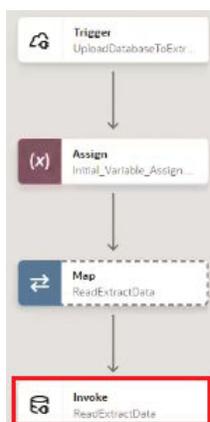
SQL 文には WHERE 句が含まれる必要があります。

6. SQL 問合せの検証をクリックして、文が有効であることを確認します。
7. 「続行」をクリックして、「完了」をクリックします。
8. 「保存」をクリックします。

DB EDM 抽出同期統合の構成

データベース接続を構成します:

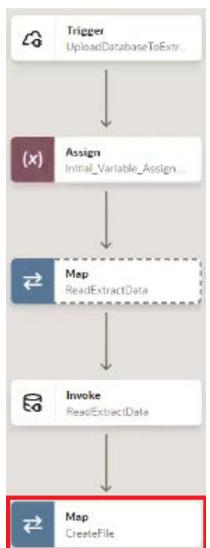
1. 「統合」セクションで、DB EDM 抽出同期統合をクリックします。統合エディタに統合が表示されます。
2. 下にスクロールして、Invoke ReadExtractData ステップを探します。



3. 「アクション」 ***をクリックして、「編集」を選択します。
4. 基本情報の編集で、**実行する操作は何ですか。**を**表での操作の実行**に設定したままにし、**表で実行する操作は何ですか。**を「**選択**」に設定したままにします。「**続行**」をクリックします。
5. 表での編集操作で、「**追加**」をクリックして表を選択します。「**スキーマ**」および「**表名**」ドロップダウン・フィールドを使用して、**抽出したデータ用のデータベース表の作成**の手順で作成したスキーマおよび表を選択します。「**表タイプ**」では、「**表**」を選択して、「**検索**」をクリックします。
6. 検索結果で、表を「**使用可能**」から「**選択済**」に移動して、「**続行**」をクリックします。
7. 「**続行**」をクリックして、「**完了**」をクリックします。

統合マッピングを検証します:

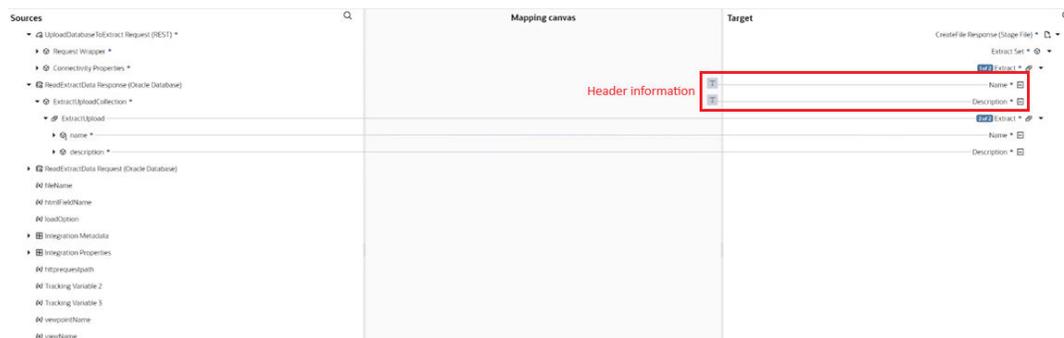
1. 統合エディタから下にスクロールして、**Map CreateFile** ステップを探します。



2. 「アクション」 ***をクリックして、「編集」を選択します。
3. マッピングに次の情報が含まれることを確認します:

ソース	ターゲット
マッピング・キャンバスの 'Name' テキスト・アイテム	抽出 1/2: Name (これは、ファイルの名前ヘッダーです)
マッピング・キャンバスの 'Description' テキスト・アイテム	抽出 1/2: Description (これは、ファイルの説明ヘッダーです)
ReadExtractData Response、ExtractUploadCollection、ExtractUpload、 name	抽出 2/2 Name (これは、実際の名前プロパティ値です)
ReadExtractData Response、ExtractUploadCollection、ExtractUpload、 description	抽出 2/2 Description (これは、実際の説明プロパティ値です)

次のスクリーンショットを例として参照してください:



4. 「保存」をクリックします。

4

レシピのアクティブ化および実行

接続およびその他のリソースを構成した後に、レシピをアクティブ化して実行します。



Note:

統合を実行する前に、接続性エージェントを開始していることを確認してください (接続性エージェントの開始を参照)。

レシピのアクティブ化

プロジェクト・ワークスペースで、「アクティブ化」をクリックします。「アクティブ化」プロジェクト・パネルで、デフォルトのプロジェクト・デプロイメントを選択し、適切なトレース・オプションを選択して、「アクティブ化」をクリックします。

EDM DB 抽出同期統合の実行

- プロジェクト・ワークスペースの「統合」セクションで、EDM DB 抽出同期統合の「アクション」***をクリックし、「実行」を選択します。
構成および実行 **Configure and Run** ページが表示され、このページで要求本文の値を指定できます。
- 要求本文タブで、次の値を入力します:

フィールド	入力する情報	例
applicationName	抽出を作成したアプリケーションの名前。	取得済 GL (レガシー)
dimensionName	抽出を作成したディメンションの名前。	コスト・センター
extractName	抽出の名前。	CCEExtract

- 「実行」をクリックします。
統合が実行のために発行されます。
- アクティビティ・ストリームで Oracle Integration の統合フローの実行をモニターします。
処理が正常に終了しましたというメッセージが表示されるまで、「リフレッシュ」 をクリックしてアクティビティ・ストリームを更新します。
- データベースで、作成した表にデータが書き込まれたことを確認します。

DB EDM 抽出同期統合の実行

- プロジェクト・ワークスペースの「統合」セクションで、DB EDM 抽出同期統合の「アクション」***をクリックし、「実行」を選択します。
構成および実行 **Configure and Run** ページが表示され、このページで要求本文の値を指定できます。
- 要求本文タブで、次の値を入力します:

フィールド	入力する情報	例
viewName	データの抽出元のビューポイントを含むビューの名前。	取得済 GL (レガシー)
viewpointName	データの抽出元のビューポイントの名前。	コスト・センター

3. 「**実行**」をクリックします。
統合が実行のために発行されます。
4. アクティビティ・ストリームで **Oracle Integration** の統合フローの実行をモニターします。データ・マッピングが完了しましたというメッセージが表示されるまで、「**リフレッシュ**」
 をクリックしてアクティビティ・ストリームを更新します。
5. **Oracle Enterprise Data Management** で、指定したビューポイントにデータがロードされたことを確認します:
 - a. **Oracle Enterprise Data Management** にログインします。
 - b. 「**ビュー**」をクリックします。
 - c. データのロード先のビューポイント(たとえば、**取得済 GL (レガシー)**)を含むビューを選択します。
 - d. データのロード先のビューポイント(たとえば、**コスト・センター**)にナビゲートし、データベース表からデータがロードされたことを確認します。

 **Tip:**

ビューポイントから、「**アクション**」、「**ロード**」の順にクリックして、ビューポイント・ロード画面にナビゲートします。「**履歴**」セクションに、実行した抽出がリストされていることを確認します。